

## 国立競技場記念作品等設置等アドバイザー会議（第3回）議事概要

1. 日時：平成28年3月4日（金）16：00～17：25
2. 場所：日本スポーツ振興センター 特別会議室
3. 議事 （1）最終保存場所（案）の確認について  
（2）意見交換
4. 出席者 木島隆康アドバイザー、工藤晴也アドバイザー、杉山茂アドバイザー、藤岡洋保アドバイザー

### 5. 議事要旨

#### <議題1：最終保存場所（案）の確認について>

- 事務局から、配置のコンセプト等（案）（資料1）、記念作品等配置（案）（資料2）、壁画のテーマ（資料3）について説明した。
- 事務局から、以下の補足説明を行った。
  - ・前回の会議でご意見のあった、野見宿禰とギリシャの女神の作品の角の部分については、現時点での参考イメージとして提示しており、実施設計で詳細を検討すること。
- アドバイザーから、以下の発言があった。
  - ・1階東ゲートに配置した野見宿禰とギリシャの女神の壁画側面について、凶面を見ると側面にこれほどの大きなカウンター窓が入るのであれば、窓上部の壁にのみ設置し、下部についてはなくても良いのではないかと思う。西洋の歴史地区によく見られる中世のオリジナルの壁が見られる保存方法で、モルタルを塗らずにその部分を限定的に残すという手法が採られている。地下2階南西エリアの階段痕のある壁画5及び壁画7については、旧階段部分の材質や断面の処理について検討をする必要がある。
  - ・地下2階西側エリアの優勝者銘盤について、例えば1964年優勝者銘盤は左側に寄せて、壁面の真ん中の部分を2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の優勝者銘盤のために空けておいて、おもてなしを表すこともできるのではないか。また、1階東ゲートの野見宿禰とギリシャの女神については、どんな収まりになるのか、気になるところであるが、設計や工事が進まないと具体的にはわからないことと理解している。
  - ・前回会議の意見を折り込んでいただければ良いと思う。
  - ・1階東ゲートの野見宿禰とギリシャの女神の側面部材については有効活用してほしい。
  - ・新しい彫刻を設置することも想定して、配置位置は臨機応変に対応していったほうが良い。

- ・彫刻については、何万人もが出入りする施設であり、彫刻の配置を踏まえた動線計画を検討いただきたい。

○以下の質疑応答を行った。

- ・アドバイザーから、地下2階南西エリアの壁画前面の掘り込み部分の検討状況について進捗はいかがか、との質問があり、事務局から、引き続き検討中である、と回答した。
- ・アドバイザーから、1階東ゲートの側面のカウンター窓のイメージについては現段階での案であるとのことか、との質問があり、事務局から、提案時点のものである、と回答した。
- ・アドバイザーから、彫刻の台座はどうなったのか、新しい台座の検討はどのようにするのか、との質問があり、事務局から、取り外しの際に台座はやむを得ず取り壊し、移転先に新たな台座を設けて設置している、新国立競技場へ設置する際は改めて検討することとなるのでご相談させていただきたい、と回答した。アドバイザーからは、建物とその周囲のデザイン的一致は必要なので、新しいスタジアムに合った台座を検討するよう、話しがあった。

#### <議題2：意見交換>

○アドバイザーから、新国立競技場への設置に際してのストーリーについて、以下の発言があった。

- ・JSCとして先人たちの築いた歴史を伝えるためにも、現時点での設置の解釈をきちんと整理しておいたほうが良いという主旨から、設置のストーリーを具体的に工夫していただければ良いと思う。
- ・壁画や彫刻を保存展示することの意義はJSCでまとめておられるが、設置位置やその配列を決めた理由については、より具体的に説明できるようにしておいた方がいい。1964年の東京オリンピックは、1970年の大阪万博とともに、敗戦後の日本が普遍的価値（スポーツと科学技術）を介して世界と絆を築き直し、プライドを取り戻すための重要なイベントだった。それを踏まえて、たとえば、東京オリンピックは「美と力の祭典」と呼ばれたので、そのレガシーをきちんと伝えるために、「美」を象徴する「ギリシャの女神」と「力」を象徴する「野見宿禰」を、新競技場のメインゲートのひとつである東側ゲートの左右に目立つように配した、というような説明をしてはどうかということである。その他の壁画群の並べ方については、グループ毎のキーワードが提案されているが、そのような並べ方をした理由として、たとえば「躍動と希望」のような、メッセージ性の強い、シンプルなキーワードで壁画のタイトルや作風などをもとにグルーピングした、といえるようにした方がいいのではないか。
- ・設置に際しての理屈付けを改めて行う必要はなく、1964年の歴史的遺産を継承

したという意志を国民に広く伝えることが重要である。壁画は観る人それぞれの感じ方に委ねるものであり、プレートには作者名と生存年、制作年、作品名等の記載があれば十分である。美術館に見られるような作品解説は必要ないと思う。

- ・ストーリー性が必要であるならば、整理して見る人に問いかけるようなもので良いと思う。
  - ・これらの作品は、1964年の時代性が反映された文化遺産であり、当時の人々の日本を背負っていく意気込みを感じる作品である。残すこと自体に意味があり重要で、この歴史的事実を伝えることが文化である。
  - ・私たちの務めは、そのような環境を作っていくことであり、人々はこれらを見てどう受け止めるか、ということである。
  - ・日本の近代美術史において、大変時代性を感じる作品であり、建物に対して自然なスタイルで残すのが良いと思う。プレートは1点ずつつけたほうが良いし、旧国立競技場での配置の説明などもあったほうが良いと思う。まとめりとしては「1964年に制作された作品群」でも良い。
  - ・美術館の展示ではなく、スポーツ観戦や散策で訪れた人が接することになる競技場の壁面であるので、タイトルプレートで十分である。
  - ・ストーリーを持たせて組み合わせを行ったことを残したほうが良いと思う。
- 事務局から、新国立競技場への設置に際してのストーリーについて、以下のとおり整理した。
- ・事務局にて本会議での議論を踏まえ、ストーリーを含めた「まとめ」を整理し、とりまとめた後、別途確認を行うこと。
- 上記のやり取りを踏まえ、資料の最終調整については座長に一任いただくこととし、最終保存場所が了承された。